

ろ 一地集合、集積ノ防止

空襲ノ激化ニ伴ヒ一地集合、集積ノ実害逐次累加シ損害防  
止上分散遮蔽ノ要大トナリ動員ハ動員擔任部隊所在地ニ於テ  
行フヘキ原則ヲ変更シテ成ルヘク大都市兵營、如キ着明ナル  
運搬物ヲ避ケテ地方ニ分散シ或ハ從來応召員ノ応召時刻ハ動  
員業務知理ノ本整ヲ凶ル為ル時、ノヨリ時ノ2面ト規定シアリ  
タル為遠距離ノ者ハ前日已ニ部隊所在地ニ到着シアリタルモ  
大都市ニ於ケル宿泊防止ノ為応召時刻ノ時間的考慮等ニ  
関シ種々施策ス

第9章 異民族ノ使用

一 朝鮮、台湾人ニ就テ

大東亞戦争カ勃発以來新府民間ニ於テ日本帝国臣民トシテ眩古  
ノ大策翼賛ノ榮ニ浴シ度キトノ熱烈ナル希望澎湃トシテ起リ帝国  
ハ之カ要望ニ応ヘ先ツ朝鮮ニ對シテ昭和ノ7年5月2日徴兵施行  
準備命令カ発令セラレ昭和ノ7年ヨリ之カ施行ノ決定ヲ見次テ同  
様台湾ニ對シテモ昭和ノ7年ヨリ之ヲ行フ運トナレリ

当時支那戰場等ニ於テハ昭和ノ7年4月創設セラレタル特別志  
願兵制度ニヨル朝鮮人志願兵カ活躍中ニシテ各地ニ疎ケタル武勳  
ヲ表ハシアリタリ 台湾人ノ特別志願兵制度ハ昭和ノ7年ヨリ之  
ヲ実施ス

斯クテ徴兵令施行ガ之等新府ノ民ノ皇民化徹底ノ促進ニ大ナル  
効果ヲ貢シタルコトハ吾ムヘカラス

陸軍要員タル台湾人朝鮮人次ノ如シ

其ノ一 徴集人員数

年 度 区 分 別	朝鮮人			台湾人		
	特 志 願 兵 別	徴 兵	召 集	特 志 願 兵 別	徴 兵	召 集
昭和14年	600					
" 15年	3000					
" 16年	3000			500		
" 17年	4500			500		
" 18年	6100			500		
" 19年		45000		1100		
" 20年		45000	35000		8000	
計						

(274)

1727

其ノ二 兵種別人員表

兵種別	朝鮮人		台湾人	
	昭和19年	昭和20年	昭和19年	昭和20年
歩兵	29388	29780	810	5000
騎兵	475	475	10	100
戦車兵	295	280		
野砲兵	1890	2030	20	
山砲兵	1430	1500	35	200
野戦重砲兵	610	645		50
工兵	1477	1480	40	350
鉄道兵	195	200		35
飛行兵	2050	1100		280
高射兵	4190	4000	140	1000
輜重兵	2030	2060	45	900
船舶兵	600	700		20
航技兵	250	250		
兵技兵	120	120		
重砲兵		260		100
通信兵		120		
計	45000	45000	1100	8000

(275)

左表ノ外内地部隊ノ勤務部隊ニ軍夫トシテ従軍セル朝鮮人台湾人相当数アリ。殊ニ南方戦線ニ於テハ台湾高砂族ノ能力ハ之ヲ高ク評価セラレタルモ之等ニ関シテハ詳細ヲ明ニスルヲ得ス

朝鮮人等、兵種配当ハ内地一般兵ノ配当ト何等差異ナキモ教育程度及技能程度ヨリシテ技術部隊ニ徴集セラルルモノ少ク召集兵ノ大部ハ勤務部隊ニ配属セラレタリ

部隊内朝鮮人等

ノ含有率ハ最高指揮官ニ一任セラレタルモ朝鮮人ノミヲ以テスル部隊ハ縮成ヲ見ス。部隊内最大包含率ハ某ノ線部隊ニ在リテハ $70\%$ 、後方部隊ニ在リテハ $40\%$ 、勤務部隊ニ在リテハ $80\%$ ヲ限度トスヘキ一標準ヲ明ニセリ

特別志願兵ニ在リテハ志願兵制度ノ本質及事前教育ノ徹底ニ依ル国語ノ理解、生活様式ノ慣熟等ヲ為軍隊内ニ於ケル一般ノ成績ハ極メテ良好ニシテ大部ハ上、中程度ニ位シタルモ徴兵ニ於テハ事前教育(朝鮮ニ在リテハ軍務予備訓練所、台湾ニ在リテハ特別訓練所ニシテ共ニ生活様式ヘノ慣熟、国語ノ理解、軍ニ対スル理解及軍事ニ関スル予備知識ノ附兵等ヲ目的トシ期間概ネ $3$ ヶ月トス)ノ不徹底等ヨリ入營兵ニ於テ国語ヲ理解出来サルモノ数%含有シアリ。又衣食ノ急変等ヨリスル身体的異調ノ為教育訓練ノ効果速急ニ求メ難ク部隊内団結モ十分ナラス逃亡者ヲ相当見ルニ至レリ且ハ内地人トノ間ニ於ケル相互理解ノ不十分ニ原因スル私的制裁等行ハレタリ

軍入營後軍内ニ於ケル朝鮮民族独立運動ニ関シ意識的ニ部内外ト連絡シテ之カ運動ヲ起スカ如キ事件ハ殆ンド無キモ昭和ノ $9$ 年ノ月入營ノ特別志願兵ハ主トシテ民族解放ノ理論、昭和ノ $9$ 年 $9$ 月以降ノ徴募兵ハ主トシテ民族感情的ニ影響ヲ受ケ居ルモノアリテ常ニ民族感情ヲ誘惑シテ軍紀事件ヲ惹起スル温床トナルモノアリ

(276)

1729

## 二 南方原住民ノ使用

南方整備面ノ拡大ニ伴ヒ昭和ノ7年請願ニヨリ解放セラレタル  
浮屠及南方原住民ヲ彼等ノ志願ニ基キ之ヲ採用シ兵補トシテ軍ニ  
使用ス

## 第10章 生産部隊ノ編成

動員史上部隊編成ニ関シ特異ナルハ昭和ノ7年頃以降ヨリノ総動  
員關係物資ノ生産部隊ノ編成ニ在リ尤モ現地軍自体ニ於テ自給ノ為  
之等部隊ヲ動員セルハ昭和ノ6年関東軍ニ於ケル製炭班、干草収集  
班等アリ 抑々昭和ノ8年未頃我軍需産業界ハ熟練工ノ応召、労務  
給源ノ枯渇ニ依ル缺員補充ノ困難化及生産性ノ極度ノ低下等ノ為  
生産実績不振ニシテ殊ニ將來激化ヲ予想セラルベキ空襲下尙克ク戦局  
ノ要請ハ生産性昂揚ノ為強カナル生産組織工場設備ヲ確立スルノ必  
要ニ迫ラレタリ

斯ル世情ニ於テ巷間産業軍隊ノ編成漸ク論議スルニ至リ軍ノ強カ  
ナル統率力指揮組織ヲ工場生産ニ再現シ強カナル統制下各種悪条件  
ヲ克服シ其ノ生産性ノ充實ヲ期セントシ戦況ノ急迫ト激烈ナル空襲  
下ノ生産ヘノ挺身セサルヘカラサル現実的状況ニ當面シ益々之ヲ唱  
導スルニ至リタリ 然レトモ現經濟機構下ニ於テ國家全般ニ互リ各  
種各業ノ生産工場ヲ対照ニ如何ニ之カ具現編成入ヘキヤハ実ニ困難  
ナル問題トシテ20年中期頃其儘ニ推移セルモ時恰モ作戰ニ備ヘ/  
億各々其ノ領域ニ奉公シ以テ米英軍ヲ撃滅スヘキ理念ノモトニ各區  
域毎ニ國民救済隊ノ編成ヲ見且之ヲ義勇戦闘隊ヘノ轉換ニ依リ従来  
ノ懸案事項ヲ解決シ其ノ目的ヲ達成セント企図セリ

是ヨリ先軍ハ動員強化ノ直接的影響トシテノ農村労務極度ノ逼迫  
ニ処シ爲シ得ル限り之ヲ援助スル趣旨ノモトニ昭和ノ7年迄農繁休  
眠性ヲ設ケ農村出身兵ヲ農繁期一時帰郷セシメアリタルモ昭和20  
年ニ至ルヤ軍トシテ直接的ニ援農ニ着手セリ。然レトモ農繁休暇ハ  
兵ノ休養的休暇ト化シ援農亦地方側ノ受入態勢ノ不備、地域的ノ偏

(277)